

令和3年度重点目標 達成報告

【達成度】

- A … 目標達成
- B … 概ね(80%程度)達成した
- C … 達成できなかった
- D … 未着手

所 管	重点目標	取組方針	達成報告														
			達成度	実施結果													
総務部	町の情報発信力の向上	<p>○町公式インスタグラムの投稿内容を更に充実させ、フォロワーを増やし、町の情報発信力を向上させる。</p> <p>【目標値】</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>(R2)</td> <td>(R3)</td> </tr> <tr> <td>インスタグラムのフォロワー数</td> <td>770人</td> <td>→ 1,000人</td> </tr> <tr> <td>インスタグラムの投稿数</td> <td>64件</td> <td>→ 100件</td> </tr> </table>		(R2)	(R3)	インスタグラムのフォロワー数	770人	→ 1,000人	インスタグラムの投稿数	64件	→ 100件	A	<p>○広報紙に二次元コードを記載し、インスタグラムの投稿ページから写真や動画が見られるようにするなどの工夫をすることでフォロワーを増やし、町の情報発信力を向上させた。</p> <p>【実績】(R4年3月末現在)</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>インスタグラムのフォロワー数</td> <td>1,132人</td> </tr> <tr> <td>インスタグラムの投稿数</td> <td>108件</td> </tr> </table>	インスタグラムのフォロワー数	1,132人	インスタグラムの投稿数	108件
		(R2)	(R3)														
インスタグラムのフォロワー数	770人	→ 1,000人															
インスタグラムの投稿数	64件	→ 100件															
インスタグラムのフォロワー数	1,132人																
インスタグラムの投稿数	108件																
	避難手段の広域化	<p>○大雨等による河川氾濫が発生した場合、町内全域が浸水する可能性があることから、広域避難の実現に向け、域外の避難先の確保、避難者の移動手段、避難勧告等の判断基準の設定について検討を行う。</p>	C	<p>○令和4年1月12日と3月22日に、松山河川国道事務所と広域避難における現状と課題について協議を行った。どの市町も避難所における感染防止対策に苦慮しており、自市町の避難スペースに余裕がなく、災害発生時に他市町から避難者を受け入れることが困難な状況になっている。このため、引き続き広域避難を検討するとともに、早期避難や分散避難について関係市町と協議を行い、車中泊用の駐車場スペースの確保等に努める。</p>													
保健福祉部	ねんりんピック愛媛2023の開催準備	<p>○令和5年度の第35回全国健康福祉祭えひめ大会(ねんりんピック愛媛2023)の開催に向け、準備を行う。(松前町交流大会種目:囲碁)</p> <p>(1) 実行委員会の設立準備</p> <p>(2) 囲碁交流大会の実施要綱の作成</p>	A	<p>○開催に向け、以下の準備を行った。</p> <p>(1) 実行委員会の設立準備 ねんりんピック2023松前町実行委員会の会則(案)を作成し、実行委員会の構成団体を決定した。</p> <p>(2) 囲碁交流大会の実施要綱の作成 愛媛県棋道協会と連携し、囲碁交流大会の実施要綱案を作成した。</p>													
	避難行動要支援者対策の推進	<p>○自主防災組織や民生児童委員等と連携し、個別計画の策定に取り組み、災害時に避難・誘導などが迅速に行える避難支援体制づくりに努める。</p>	D	<p>○自主防災組織から、「個別避難計画作成の対象となる避難行動要支援者が多数おり、一律・定量的に計画を策定することが困難である」との意見があったため、災害対策基本法や国の指針等の改正要旨を踏まえて、町が障がい者や独居高齢者等の個別避難計画を優先して作成することとした。令和3年度は着手できなかったため、令和4年度から計画作成に取り掛かる。</p>													

所 管	重点目標	取組方針	達成報告	
			達成度	実施結果
保健福祉部	地域共生社会の実現	<p>○重層的支援体制の整備</p> <p>(1) 包括的支援体制の研究 複雑化・複合化する地域生活課題に対応するため、庁内各課が連携して課題解決を図る包括的な支援体制の構築について研究する。</p> <p>(2) 地域包括ケアシステムの推進</p> <p>ア 生活支援体制の整備 社会福祉協議会と連携し、第1層協議体及び町内3校区の第2層協議体の運営を支援するとともに、第3層構築に向け、地域の支え合い体制づくりの周知を行う。</p> <p>イ 認知症施策の推進 医療機関、介護サービス事業所及び地域の支援者と連携し、認知症の早期支援体制を整備するとともに、認知症の人と家族を支える認知症サポーターを養成する。</p>	C	<p>○重層的支援体制の整備に向け、以下の取組を行った。</p> <p>(1) 包括的支援体制の研究 「8050問題」や「ダブルケア」、「ごみ屋敷」など、一つの窓口では対応しきれない複合的な課題に対応できるよう、庁内の情報共有方法や連絡・協力体制の構築に向け、他市町の先進的な取組事例を研究した。次年度は、関係部署と体制構築に向けた協議を行い、包括的支援体制を整備する。</p> <p>(2) 地域包括ケアシステムの推進</p> <p>ア 生活支援体制の整備 第1・2層協議体の運営支援は、感染拡大の影響により実施できなかった。次年度は、感染状況に留意して、第1・2層協議体の運営を支援する。 第3層構築に向けた地域の支え合い体制づくりの周知については、町民が参加する「いきいきセカンドライフ講座」や「西公民館高齢者教室」等に出向き、参加者に対し周知を行った。次年度以降は、地域が体制づくりに取り組むインセンティブとなるよう、取組に対する補助制度を設けるほか、各行政区の高齢者の生活状況を調査し、その結果を各行政区に報告して地域で課題解決できる体制整備を促す。</p> <p>イ 認知症施策の推進 認知症の早期支援体制整備については、町内の医療機関、介護サービス事業所、居宅支援事業所等の多様な機関が連携して協議する会議の設立に向け、検討を重ねている。 認知症サポーター養成については、6月25日に認知症の人と家族を支える認知症サポーター養成講座を愛媛医療生協大間支部で開催した。このほか、町内の大型商業施設や金融機関等の民間企業を対象とする講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催できなかった。</p>
	旧給食センター（通称：環境プラザ）の撤去	<p>○旧給食センターは老朽化により危険であるため、現在利用している団体と利用中止の交渉を行い、利用中止後は速やかに施設の取壊しを行う。</p>	B	<p>○利用団体と移転交渉を重ね、シルバー人材センターについては、梯子・草刈り機等の作業道具を「思い通り」高架下へ移すこととなった。（R4.6頃完了予定）まさきエコクラブには、東公民館を移転候補地として提案した。全利用中止後は、速やかに施設を取り壊す。</p>
	マイナンバーカードの交付率向上	<p>○マイナンバーカードの交付率を向上させるため、5月から9月まで月2回の土曜日開庁を行う。このほか、木曜日には受付時間を延長して対応する。</p> <p>【目標値】 マイナンバー交付率 50% (中間報告時に35%→50%に上方修正)</p>	B	<p>○交付率向上のため、月2回の土曜日開庁、第3木曜日の受付時間延長を実施したほか、確定申告に合わせて地域の公民館、集会所へ出向き出張申請サポートを実施した。このほか、消防本部等へ出向き消防職員の出張申請サポートも実施した。今後も、積極的に交付率向上の取組を継続して実施する。</p> <p>【実績値】 45.26% 13,859枚</p>

所 管	重点目標	取組方針	達成報告	
			達成度	実施結果
保健福祉部	健康づくりの推進	<p>○総合健診の実施 医療費抑制を図るとともに、町民の健康寿命の延伸を図るため、総合健診を実施する。</p> <p>【目標値】 特定健康診査 46% 特定保健指導 45% がん検診受診率 50%</p> <p>○中高年の肥満（メタボ）対策の推進 健康寿命の延伸及び健康格差の縮小の実現に向け、生活習慣病の発症や重症化を予防するため、町の健康課題である中高年の肥満対策として、ジョギング教室や健康づくりフォーラム、健康ポイント事業、わが家の朝食コンテストを実施し、町民の運動習慣の定着や健診受診行動を促す。</p>	B	<p>○総合健診の実施 特定健康診査は、6月から開始し、年度末まで実施した。特定保健指導は、健診結果に基づき実施した。受診率が、目標値を下回っているため、引き続き、積極的な受診勧奨に努める。</p> <p>【実績値】 ・特定健康診査 28.7%（速報値） ・特定保健指導 26.5%（速報値） ・がん検診 胃がん 5.4% 肺がん 7.1% 大腸がん 9.4% 子宮頸がん 7.6% 乳がん 10.1%</p> <p>○中高年の肥満（メタボ）対策の推進 健康づくりフォーラムは、10/21に開催を予定していたものの、感染警戒期のため、2/12に開催を延期したが、オミクロン株感染拡大特別警戒期間のため中止となった。 健康ポイント制度は、93名の参加があり特に優れた取組や成果があった方1名に健康大賞を贈呈した。また、「わが家の朝食コンテスト」については、84件の応募があり優秀者3名を決定し表彰した。優秀者のレシピは令和4年度に広報紙で周知予定。</p>
	産後ケア事業の実施	<p>○安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを推進するため、産後の母子の心身のケアやサポートを行う産後ケア事業を実施する。</p>	A	<p>○令和3年5月から事業を開始し、3月末時点で25人の申請、延べ74回の利用があった。利用後アンケートでは、「また利用したい」との回答が100%で、満足度が高かった。第2子以降の経産婦の利用が6割を占めており、本事業を継続して実施することにより、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを推進する。</p> <p>【利用実績】 短期入所型：39回 通所型：28回 居宅訪問型：7回</p>

所 管	重点目標	取組方針	達成報告	
			達成度	実施結果
産業建設部	空家対策の推進	○特定空家の認定基準・認定方法等について検討する。このほか、町が把握している空家のうち、周囲に危険や悪影響を及ぼすおそれのあるものについては、所有者等に対し適正管理や除去の働き掛けを行う。	C	○特定空家の認定基準・認定方法等については、今年度決定することができなかつたため、次年度も継続して検討する。危険空家の除去については、所有者等に対して除却補助を案内するなど適正管理の働き掛けを行い、6件の危険空家を除却することができた。
	南黒田工業団地の整備	○近隣住民を対象とする説明会の開催 鳥ノ木北団地住民への説明会を継続して行う。 ○愛媛県及び伊予市との協議の実施 両者との事業実施に向けた協議を行う。 ○企業ニーズ調査の実施 調査を実施し、工業団地の必要性や課題の整理を行う。	A	○令和3年5月に鳥ノ木北団地住民の代表者に対して企業ニーズ調査の実施に関する説明会を開催した。調査実施後は、実施結果の説明会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により延期したため、次年度に開催する。 ○愛媛県及び伊予市と以下のとおり協議を行った。 (愛媛県) 河川占用や開発緑地の取扱いなどについて、協議した。また、農産法実施計画の事前協議を行った。 (伊予市) 鳥ノ木北団地住民の代表者の説明会への同席を依頼するなど、事業実施に向けた協力体制の構築を図った。 ○令和3年10月末に企業ニーズ調査が完了した。調査の結果、進出を希望する企業があつたため、次年度は、工業団地整備に必要な農産法実施計画の作成に着手する。
	町営住宅の整備方針の検討	○老朽化している木造町営住宅の統廃合を含め、町営住宅全体の建替計画を検討する。	A	○現在12箇所ある町営住宅の統廃合や建替えについて検討を行い、松前町公営住宅等長寿命化計画を策定した。二名住宅、平松住宅、宗意箱住宅、神子舞住宅、江川住宅の5住宅について建替えを行い、町営住宅を4住宅に集約することとした。
	人・農地プランの策定支援	○人・農地プランの策定を希望する地域に対し、プランの策定支援を行い、地域農業における中心経営体及び地域における将来的な農業のあり方を明確にし、地域農業の発展を目指す。	A	○令和3年度中に人・農地プランの策定を希望していた7地区(徳丸、出作、鶴吉、東古泉、大間、恵久美、北川原)全てにおいて、プランの策定が完了した。
	新型コロナウイルス感染症対策のための企業支援の充実	○新型コロナウイルス感染症の影響により売上げが減少するなど、支援を必要とする事業者に対し、事業継続のために必要な支援を実施する。	A	○新型コロナウイルス感染症の影響により、売上げが減少した事業者に対する応援金や雇用を維持するための助成金など、合計7つの支援事業を実施し、町内事業者等の事業継続を支援することができた。 【実施した支援事業】 ・新型コロナウイルス感染症対策緊急地域雇用維持助成金 ・新型コロナウイルス感染症対策雇用調整助成金等申請事務委任手数料補助金 ・松前町えひめ版県・市町連携事業応援金 ・新型コロナウイルス感染症対策営業時間短縮等協力金 ・新型コロナウイルス感染拡大予防設備整備費補助金 ・新型コロナウイルス感染症対策新ビジネスモデル補助金 ・松前町えひめ版県・市町連携事業応援金(第2弾)

所 管	重点目標	取組方針	達成報告	
			達成度	実施結果
教育委員会	ICT教育の推進	<p>○オンライン学習環境の整備 教師と児童生徒とのやりとりをオンラインで行うことができるようにするため、オンライン学習の環境整備を行う。</p> <p>○ICT教育能力の向上 教職員がICTを活用した授業方法等を学ぶことができる研修を実施する。</p>	A	<p>○オンライン学習環境の整備 ビデオカメラ・キャプチャーボード・プロジェクターなど機器及び通信環境を整備し、オンラインで学習ができる環境を整備することができた。</p> <p>○ICT教育能力の向上 各学校において、教職員を対象とする「教職員ICT研修」を実施し、教職員のICT活用能力の向上を図った。</p>
	地域と連携したキャリア教育の充実	<p>○児童生徒が地域産業や企業の良さ、地域で働くことの魅力を実感できるよう、職場体験学習の拡充など、キャリア教育の充実に取り組む。</p>	B	<p>○北伊予中・松前中では、松前町立の保育所・幼稚園に1日間、地元企業に4日間の職場体験を行った。</p> <p>岡田中は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により実施できなかったため、代替措置として、インターネットを活用した職業研究を行い、自身の進路や興味のある仕事について知識を深めた。</p> <p>小学校では、第3学年の社会科で町内の企業見学を実施し、地場産業についての知識を深め、地域で働く魅力を学んだ。</p>
	ホッケーのまちづくりの推進	<p>○ホッケー公園の魅力を上昇させるため、利用者ニーズを把握し、施設の附帯設備の充実を図るほか、町職員クラブチームで、まさきホッケークラブの保護者とのホッケー交流会など、町内の機運醸成を図るイベントを企画して実施する。</p>	A	<p>○令和3年7月に、東京オリンピックに出場した男子ホッケー日本代表「サムライジャパン」のパブリックビューイングを松前総合文化センターで開催し、町内の機運醸成を図った。</p> <p>また、10月23日にはU-15ジュニアユース女子日本代表選手選考会が開催され、多くの中学生に本町のホッケー場の魅力を発信することができた。日本ホッケー協会中学部会からは、令和4年度以降もU-15ジュニアユース女子日本代表選手選考会を本町で開催したいとの要望を受けている。</p> <p>このほか、おしやれ予算を活用し、ホッケー場南側に、屋根付観客スタンド（120名収容）を整備した。（R4.1完成）</p>